

令和2年度 自己評価書

学校名

北海道苫小牧総合経済高等学校

1 本年度の重点目標

- 1 心身の健康増進と安全に行動する態度の育成を図る
- 2 学習意欲の育成と学習習慣の定着を図る
- 3 豊かな人間性と社会性の育成を図る
- 4 望ましい勤労観・職業観の育成と進路実現を図る

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成 状況	取組の 適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
教育課程・ 学習指導	教育課程の 状況	コロナウィルス感染症により、学習方法の変更による対応を行った。学習の遅れについては、7時間授業の実施、学校行事の縮小等で対応を行い改善が図られた。家庭学習の定着については、学校休業により自宅学習の機会が増加したという結果を得た(学校評価アンケートでは87%の保護者が「概ねあてはまる」と回答)。	B	B	・家庭学習間の定着に向けて、各教科間が連携を図り工夫し実践していく。 ・学習に対する達成感や成就感を高める指導、及び進路指導と連携した学習活動の充実や学科の特色を活かした体験的学習の充実を図る。教科横断的授業についての研究授業、教科研修、実践の機会を増やす。
	各教科の状況	教科間の連携不足の現状があり、教科横断的な授業展開が不足している。(自己評価で約55%が「不足している」と回答している。検定試験に対する教育活動においては取組の効果が出てきている。(生徒は資格取得に努力しており、自己評価では約70%が「概ね達成」と回答している)	C	C	
生徒指導	生徒指導の 状況	コロナウィルス感染症対策として、玄関指導に重点をおき指導を行った。その結果、遅刻、身だしなみ等に関する指導が大幅に減少した。(学校評価アンケートでは88%の保護者、90%の教職員が概ね出来ていると回答している)	B	B	・基本的生活習慣の確立と安全教育の充実を図る。 ・教職員の共通理解、共通実践による生徒指導の充実を図る。 ・日常の取組の中で生徒、保護者との信頼関係が構築できるよう、定期的な面談を実施する。 ・全校、学年集会の充実。
	人格的発達 のための指 導状況	人権や生命を尊重する態度の育成や、いじめ問題について適切に対応できている。(学校評価アンケートでは94%の保護者、96%の教職員が出来ていると回答している) 教育相談的な相談ができている。(学校評価アンケートでは、88%の保護者、92%の教職員ができていると回答している)	B	B	
進路指導	就職・進学 指導の状況	3年間を見通した進路シラバスの改善を行った。個別に応じた情報提供は概ねできている。(学校評価アンケートでは3年間を見通した進路指導計画に85%の保護者と64%の教職員ができていると回答している。また、情報提供について85%の保護者と83%の教職員ができていると回答している)	C	C	・企業開拓(事務職・販売職)を積極的に実施し、生徒の進路先確保に努める。 ・進路指導部と3学年の連携を密にし、3年間を見据えたキャリア教育を推進する。
	地域・企業 との連携状況	今年度、感染症による採用の減少が予測され、情報収集を兼ね市内企業を中心に訪問を実施した。昨年度課題とした就職先の範囲拡大については改善している。(学校評価アンケートでは75%の教職員が概ね良好と回答している)	B	B	
その他					
健康・安全 指導	健康指導	コロナウィルス感染症対策を中心に対策を実施した。予防と対策について資質が育成できている。(学校評価アンケートでは89%の保護者と93%の教職員ができていると回答している)	A	A	・「保健だより」による啓蒙活動の継続と外部講師等の招聘による生徒への働きかけを充実させる。 ・心の相談委員会の充実 ・教育相談体制の確立を図る。 更なる生徒理解のため、日常的な相談体制の充実。
	心の病気 への対応	今年度、心の病を抱える生徒の増加が見られた。学校カウンセラー、外部機関との連携を行い対応を行った。また、健康な生活を実践する習慣を身につけさせる指導は概ね良好である。(学校評価アンケートでは88%の保護者と93%の教職員ができていると回答している)	B	B	
国際理解	国際理解	今年度、海外見学旅行が中止となり、当初予定していた内容を実施することができなかった	C	C	・国際理解教育のための新たな取り組みの検討を図る。 ・台湾の高校との交流を図る。

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・新教育課程の具体的指導内容の検討。
- ・3年間を見据えた進路指導及びキャリア教育の確立が必要である。
- ・校内研修の活発化を図り、観点別評価や履修修得・教育相談の体制などについて理解を深めていく必要がある。
- ・効果的な学校情報の適切な発信が必要である。